

## 受賞者挨拶

2007年コスモス国際賞の受賞者に選ばれ、大変光栄です。歴代の受賞者は、大きな影響力をもつ業績を上げておられる科学者ばかりで、その列にこうして加えていただいたことを誇りに思います。私は25年にわたって保全生物学の研究を行ってまいりましたが、その間、多くの同僚たちに恵まれ、公私にわたって励まし支えられてきました。今回の受賞は、そうした方々の賜物であると考えております。

種の間に見られる相違を調査・解明し、その相違がどの程度、進化的背景や生存環境の相違によって生じてきたのかを理解する。私はまずこうした研究に関心を抱きました。この研究を通じて、適応変異が確かに起こっていること、種の進化と存続の能力を決定するにあたって環境が大きな役割を果たしていることを理解することができました。私をご指導頂いたポール・ハーベイ先生とジョン・メイナード・スミス先生は、常に私を励まし、研究の楽しみ方や〈良い科学〉と〈悪い科学〉を見極める方法を忍耐強く教えてくださいました。これはどちらも若い研究者にとって欠かせない能力です。

私はさらに、個体数の減少が個々の種に及ぼす影響についての研究や、絶滅危惧種を野生のまま保全する方法、捕獲して動物園での飼育繁殖プログラムを通じて保全する方法について研究を続けてきました。IUCN(国際自然保護連合)のレッドリストに掲載する絶滅危惧種の基準をどのように策定するか、とりわけ、世界で最も深刻な絶滅の危険に瀕している種をどのように特定するかという問題に関わるようになったのは、このような研究を通じてのことでした。この仕事には延べ10年以上を要しました。私はこの仕事を主導し、調整する役割を担

いましたが、成功を収めることができたのは、多くの人々のアイデアと知識のおかげです。特に、IUCNのスタッフには、現実社会の難しい問題に対処するうえで、常に的確なアドバイスを頂きました。そして、多くの同僚科学者のおかげで、不可能と思われた課題も達成可能になったのです。今私は、IUCNのレッドリストがプログラムとして確立されて、データが定期的に更新され、世界中の種の現状を絶えず評価できるようになっていることを心から喜んでおります。とりわけ、我々はいまではレッドリストのデータを発展させて、生物多様性を測る指標を提供しています。種の絶滅への動きを監視し、その動きを食い止め、好転させるためのより有効な保全活動を策定することができるのです。

現在は研究範囲をさらに広げ、特に地球環境変化、気候変動、およびそれが人間と生物多様性に与える潜在的な影響という喫緊の課題について研究しています。幸い私は、ミレニアム・エコシステム・アセスメントに招かれ、生物多様性にかかわるいくつかのセクションの統括をするという機会を得ました。我々は生物多様性の変化をはっきり示す入手可能なデータや、その変化が人間や生態系に与える影響、そして監視を通してこれまでに確認された様々な事実について知識を深めました。ただ、この分野には、未知の部分がまだ多く残っています。この仕事はまだ途上にあり、非常に骨の折れるものでもあります。この地球上で人間が自然と持続可能なかたちで共存していく方法を見つけるためには、こうしたことがらは、〈良い科学〉をもってして取り組まなければならない極めて重要な問題だと言えるでしょう。

私にご助力、ご支援して下さった方々、特に、シモン・スチュアート、アンドリュー・バルムフォード、アンディー・パービス、ジョナサン・ベイリーに感謝の意を表します。また、ロンドン動物学協会とロンドン大学の幹部の方々、およびIUCNとミレニアム・エコシステム・アセスメントの同僚のご支援にも御礼申し上げます。そして、何より、夫のロッド・エバンスと、私たちの子供、ベン、エマ、ケイトに感謝したいと思います。仕事のせいで家を空けることが非常に多く、そうでなくても家族に迷惑をかけることが多かったはずですが、夫と子供たちは私の仕事を温かく見守り、理解を示してくれました。今回の受賞は私の荣誉であるだけでなく、このような人々全ての荣誉であることをお伝えしたいと思います。

ジョージナ・メイス